

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日平成29年12月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300092
法人名	社会医療法人 恒心会
事業所名	グループホームイーストサイドおぐら
所在地	鹿児島県 鹿屋市笠之原町29番39-1号 (電話) 0994-41-7420
自己評価作成日	平成29年11月17日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、法人母体が社会医療法人病院であり、定期的な訪問診療を受けることが出来、また緊急時においては日頃から連携をとっていることで迅速な対応が行えるように努めています。日頃の体調管理については、訪問看護との連携を密にとり異常の早期発見や予防にも取り組んでいます。また地域医療との連携を積極的に図り、在宅訪問診療の導入を継続し地域医療連携にも努めています。年間のイベント実施予定計画を作成し、家族や地域との関わりが途切れないよう、地域への外出を行ったりとイベントを企画し支援しています。また29年度より、法人内の管理栄養士によるグループホーム内の月1回の栄養管理回診を開始し、栄養状態の把握相談を行いバランスのとれた食事摂取が出来、ホーム内での生活が続けられるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(事業所の優れている点)

- ・身体拘束防止委員会があり、年間計画を作成して、担当職員を中心に毎月話し合いに参加している。また、内部研修会や地域包括支援センター主催の研修会にも積極的に参加し、知識や技術などを研鑽しケアに活かしている。居室内や廊下に、「徘徊感知機器」を設置しているが、身体拘束禁止規定に留意し、安心、安全という名のもとに安易に漫然と使用され人権を侵害することがないようにアセスメントや定期的なモニタリングを実施、カンファレンスなどで話し合い、生活の質の向上のための一つのツールとして位置付けている。
- ・職員の意識も高く、本人が動きたいという思いを重視している。
- ・今年度から、管理栄養士が月1回食事時に巡回し、嚥下状態を確認したり職員と情報を共有しながら、食事形態を工夫するなどして専門職の立場から栄養面を含めトータル的に職員にアドバイスするなど本人が美味しく食べたい気持ちを大切に支援している。

(事業所の工夫されたい点)

- ・法人の災害マニュアルを元にホームのマニュアルを見直して水害対策、停電対策を実行し、職員は、「管理日誌」にて防災機器の自主点検や環境チェックを実践しているが、地域の協力体制については、運営推進会議などで町内会長や民生委員などに協力を呼びかけるなど取り組まれたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員一人一人がいつでも確認できるように理念カードを携帯している。全職員の意識付けの為に事業所内に掲示し、日々のケアの実践に役立てている。	理念は、その人らしい生活の実現や馴染みの関係性を重視し、地域に根づいたホームを目指すなど5つの理念を掲げている。職員は、理念カードを携行し常に理念を意識したケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間計画を作成し、日々の生活の中で地域に出向き地域の方々とのつながりが保てるよう努めている。またドッグセラピーの方やボランティアの受け入れを積極的に行っている。	2地区の町内会長、民生委員など日々の関わりがあり、運営推進会議や行事案内などで地域の情報収集をおこない、外出時や地域の行事を通じて地域交流をしている。また、中学生の職場体験、ボランティアの受け入れなど積極的に実施している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人が主催するオレンジカフェに参加することで認知症の方への理解・支援の方法について地域の方へアドバイスが出来るようにしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議の場で利用状況をはじめ活動報告やイベント、研修会報告を中心に報告を行っている。報告をもとに参加者から意見や助言を頂き運営やサービス向上に努めている。前回の目標達成計画の一つである、ご家族参加に関しても4組参加できている。	会議は、パワーポイントを使い利用者の暮らしぶりがより分かりやすいよう写真を用いて報告している。会議日程表は、事前に家族に配布し、家族が参加しやすいよう声かけし、実際に参加者が増えるなど一定の成果も見られているが、会議の内容を工夫するなど今後も引き続き取り組んでいく予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、日々メールや電話を利用し相談報告を行い指導を仰ぎ連携を図っている。また運営推進会議の場を利用して活動報告を行い、必要時は直接市へ足を運び情報交換を行っている。	市職員とは、日頃から電話やメールなどで相談し助言をもらう機会が多い。また、運営推進会議では、双方間の協力関係を構築しながら、情報交換し適切な事業所運営を目指し連携強化を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止については年間計画を作成し、担当職員を中心に毎月話し合いを行っている。また勉強会も開催し正しい理解と認識が継続できるよう、全職員へ認識の周知を図っている。	身体拘束委員会があり、担当職員を中心に年間計画を作成して研修や会議などを開催している。また、居室や廊下に徘徊感知機器を設置活用しているが、アセスメントやモニタリング結果を踏まえ、行動を抑制したり、安全性やケアを重視するだけでなく、利用者の生活の質の向上を図るため、本人の思いを汲み取り職員間で情報を共有し、チームケアで取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については年間計画を作成し、毎月の話し合いを担当職員を中心にしている。事業所内での勉強会を開催し、正しい知識を学ぶ事で日頃から虐待の早期発見に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度2月に勉強会を開催予定である。ケアの在り方や家族との関係性について話し合いの場を設けている。地域包括支援センターなど他事業所との連携を図り、何か事例等が発生した場合はいつでも相談・支援して頂ける体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際利用約款・重要事項説明書を用いて十分な説明を行い納得された上で利用同意を得ている。法改定や制度改定の際も説明を行い変更の同意を得るようにしている。また、本人ご家族からの不安や質問があった際には理解していただけるまで説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見を頂けるようにしている。毎月家族レターの中に意見等があった場合は書いてもらえるように用紙を同封している。サービス担当者会議や面会時など意見がもらえる機会としている。意見が聞かれた際は真摯に受け止め適切な説明を行えるようにつとめている。	利用者には、日々の暮らしのなかで希望や意見などを聞き取るようにしているが、家族からは面会時や毎月の請求書と一緒に文書を同封するなどして、いつでも意見が出しやすいよう体制作りに取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、ユニットミーティングを実施し、職員の意見や提案を聞く場を設けている。施設内に職員意見箱が設置しており、言いにくいことなども投書できる環境も作っている。	職員は個人の目標シートを作成し自己評価して管理者と半年に1回面談している。30代から40代の職員が多く、離職率は低いが、法人内の移動が3～5年で定期的にある。法人は、職員がいつでも意見、提案が出せるよう意見箱を設置するなど組織的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の増員はなかなか難しい状況が続いている。法人上司との意見交換を行いながら環境・条件整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職者・異動者にはプリセプターを配置し指導を行っている。一年に一回以上外部研修に全職員が参加できている。介護職を対象とした現任研修を開催しており全職員が参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所協議会に参加し、協議会主催の研修会に参加し、同業者との情報交換を行いながら質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始の際、これまでの生活情報の収集、本人が不安に思っていることなどの情報を全職員で共有し、本人の安心確保につながるように信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にパンフレットを用い事業所の説明を行い見学も行っている。家族や本人の困りごと等を確認の上、介護サービス計画書を作成し、サービスの提供を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族にも話を聞き、生活情報を基にサービス提供を行っている。心身の状況を見極め、家族や関係機関と連携をとり早急な対応を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活させて頂くという姿勢を大切にし人生の先輩として色々な知恵をもらい、生活を支援する上では洗濯たたみなど、何事も利用者と職員が共に行っているように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来ていただけるような広報と御家族が面会に来られた際は、ゆっくりとした交流が出来るような空間作りを行い、日常生活の様子も報告するよう努めている。また状況に応じて、家族へ電話連絡も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントを企画し地域の方へ広報を行い交流の機会をもてるようにしている。家族に限らず友人等の面会も快く受け入れている。	近所や知人の方が面会に来られる方や家族の協力をもらいながら、外出や外泊をして馴染みの方との関係性が途切れることがないように支援している。また、家族が遠方におられる方には、本人のアルバムを活用して思い出話を伺うなど本人が大切にしてくられた関係性を共有できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、話が好きな方が隣同士になるよう席を配慮している。また日々のレクリエーションやイベントで利用者同士が関わる機会でのコミュニケーションを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの理由で契約が終了になっても再入所の申し込み受け入れや家族来所等、相談に応じている。また医療機関や他事業所とも連携を図り、本人ご家族の不安が軽減するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で気持ちの確認や聞き取りを行い把握するようにしている。言葉で表現出来ない方でも日々の関わりの中での表情や体動などから感じ取り、困難な時は家族からの情報を頂きこれらの意向を汲み取り、本人本位のケアに努めている。	職員は、会話したりサービスをおこなう中で本人の思いに触れたり、思いを汲み取るなどしてケア指示簿や連絡ノートなどに記録し活用しながら、カンファレンスや担当者会議などで本人の思いや意向を共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や入居後においても利用者やご家族から情報収集を行い、カルテやケア指示簿、介護記録システムへ入力することで職員の情報共有を行い、より良いサービス提供に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアをしていく中で、関わりを通した心身の状況を把握出来るよう、システムの関わりの項目へ入力を行っている。一人一人の楽しみや生きがいに繋がるよう内容をもとに情報共有に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にカンファレンスを開催し、利用者やご家族、職員より意見を聴き作成をしている。日々のモニタリングと定期的なモニタリングを実施し、必要に応じて介護サービス計画書の見直し変更を行い、サービスの提供をしている。	利用者担当職員、計画作成担当者を中心に毎月のモニタリングを踏まえ、再アセスメント、定期モニタリングの実施、必要に応じて見直しをおこなうなど柔軟に取り組んでいる。介護計画書には、計画作成者の意見（課題分析結果）を必ず記載するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについては、全職員が閲覧できる介護システムに入力し情報共有に繋げている。また毎月のユニットミーティングの中でも、ケアの統一性や方向性について検討を行い、連絡ノートやケア指示簿を活用した情報共有を行い統一したケアへの実践に繋げている。計画書作成の際のアセスメント評価の材料としても活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況に応じて、協力医療機関、訪問看護、在宅医とも連携を行いながら必要な支援の提供を行うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は実習生の方はいなかったが、実習生やボランティアの受け入れを積極的に行い、これまでの地域との関わりや繋がりについて事前に情報収集し、本人の楽しみが続けられるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は職員の同行を基本に情報交換を行い、かかりつけ医の意見をもとに適切な医療が受けられるよう支援している。家族の同行可能な場合は、医師、家族、ホームで情報共有が図れるようにしている。関係機関とは24時間連携をとり、利用者家族の安心に繋がるよう支援を行っている。	外来受診は、職員が対応するが必要に応じて家族にも同席していただいている。訪問診療もあり、急変時や夜間帯の対応も24時間医療連携が図れている。また、皮膚科、泌尿器科、歯科受診など必要に応じて職員が受診に付き添うなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関である訪問看護ステーションことぶきへシステムを活用した毎週1回の情報交換を行い、必要時には訪問をしてもらい相談・指導を受けることで早期病院受診に繋がっている。また法人内の看護師とも24時間連携が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった際、入居中の様子をサマリーにまとめ情報提供を行っている。入院中は医療相談員を通じて情報把握を行うよう努め、退院後の支援についても情報提供を書面で頂くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者や家族に対して書面で方針を説明し、緊急時の場合を含めて意思確認を行い同意を得ている。医師から終末期の段階に入る際には話をして頂き再度意思の確認を行い、カンファレンスを開催しケアの方針を職員で話し合い支援を行っている。	契約時、重度化及び看取り介護の基本理念、対応について文書にて説明と同意をいただき、また、現時点での「医療に関する意思確認書」を取り交わしている。法人の看護体制、訪問看護ステーションとの連携が構築されており、段階に応じたカンファレンスなどを実施し、本人や家族の望む終末期ケアなどについて話し合い、納得のいく最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1名の職員がBLS研修へ参加し、研修を修了した職員を中心に年2回、急変時や事故発生時に備えて心肺蘇生法やAED操作の勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯及び夜勤帯想定の下、利用者にも参加してもらい避難訓練を実施している。全職員が参加出来るよう年数回、行うようにしている。	職員は、管理日誌にて防災機器や住環境の整備、点検など日常業務に位置づけ取り組むなど防災意識が高い。今年度は、「防災マニュアル」を見直し水害や停電対策を具体化したほか、廊下に常夜灯を設置している。法人との協力連携体制はあるが、地域との協力体制については、今後の課題である。	防災意識が高く法人の協力体制が整備されているが、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練を実施したり、地域の協力体制を町内会にお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけるなどの取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃のケアを行う中で、入浴や排泄等羞恥心を伴うものについては特に、プライバシーを考慮したケアに取り組んでいる。法人内の接遇委員会にも参加し、言葉づかい等全職員が意識して取り組むよう努めている。	法人の接遇委員が、「就業時身だしなみ規定」に基づいて毎月、定期巡回・点検を実施するなど、言葉使いやケアの対応方法、身だしなみなどについてチェックしている。各ユニットの職員は自己点検シートを活用して振り返り、記録物の取り扱いや居室の出入り時の声かけなどプライバシーに配慮した支援を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄時や更衣、入浴時等生活の中で、意思の表出、自己決定が出来るよう声掛けへも工夫をしている。同じ目線で時にはゆっくり座り、普段の会話の中からも希望が聞き取れるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を把握・考慮し、レクリエーション活動や体操への参加をしており必要時、希望時は休息を行うよう促している。生活リズムに配慮した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者個々の好みの把握に努め、季節・気候に合った衣類を自ら選択出来るよう支援を行っている。本人の意向を確認の上、出張サービスを活用しながら散髪も定期的に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内管理栄養士が栄養価を考慮し作成した献立を基に、食事の提供を行っている。間食など利用者と職員と一緒に下準備からおやつ作りを行う事もあり、楽しみに繋がっている。ホームの菜園で栽培している季節の野菜も使い、季節感を感じて頂けるよう取り組んでいる。	今年度から、毎月1回、管理栄養士が食事時間に巡回し、摂取状況など把握して食事形態を工夫したりするなど職員と情報を共有し、利用者が食事を楽しめるよう支援している。また、炊飯や行事食は職員が提供、利用者に手伝いをもらいながら菜園の野菜を活用しておやつ作りをしている。外食は家族や職員と楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で栄養のバランスはしっかりとれている。食事の摂取、水分の摂取は体調を見ながら摂取量の表を利用することで全スタッフで共有できている。今年度より管理栄養士によるラウンドを毎月行い、多職種による支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施する事が肺炎予防にも繋がることをスタッフが認識し、口腔ケアを実施している。個々の口腔の状態に応じたケアを行いトラブル等の早期発見が出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用してスタッフ間で連携し、また他職種への相談等、排泄の状態、個々に応じたおむつの検討を行い自立に向けたトイレ誘導を行っている。排泄の認識が少ない利用者は排泄の声掛け誘導で失禁の軽減ができています。	利用者ごとに排泄リズムや状況を把握しなるべくトイレで排泄できるよう自立支援に取り組んでいる。居室でポータブルトイレを併用される方もあるが、臭いもなく使用しない時は布を掛けるなどプライバシーにも配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況の把握を行っている。医師への相談、薬、オリゴ糖、下剤、センナ茶、腹部マッサージ、運動とその都度状態に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴が定期的に行えるように支援し清潔保持に努めている。誘導の際拒否のある方にも声掛けに工夫したり、時間をずらしさりするなど無理することなく実施している。基本は週に3回の入浴を実施しているが一人一人の状態に応じて回数を増減したり、体調によっては清拭等の代替援助を行っている。	入浴方法については、アセスメントやモニタリング結果を参考にして本人と職員が話し合い、その日の本人の身体状況や気分などを考慮して無理のない入浴支援をおこなっている。必要に応じて手指浴、足浴を施行、2号館には、リフトが設置してある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に応じて昼寝を促す。声掛けを行ったり、ソファや畳部屋でくつろげるように支援している。居室ではゆっくり気持ちよく過ごしてい頂けるよう寝具の調整、検討、室温にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬(定期薬、臨時薬)の説明書を確認し不明な点は担当医や薬剤師に問合せを行い、その都度確認している。スタッフ全員が内服を把握できるように内服薬確認表を作成している。ケア指示簿を活用して内服薬による効果や副作用などの情報交換を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や裁縫、調理等、今まで行っていたことを話題づくりや作業に取り入れている。季節を感じて頂くために行事や外出も企画・実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に考慮し、外出や外での活動を行っている。病院受診等、ドライブや外食等担当スタッフと利用者2人でゆつくり外で過ごすことも行っている。	職員は、恒例の初詣、駅伝見学、花見など、ユニットごとに年間の行事計画書を作成し実践しているが、節分、敬老会、そば打ちなどは、両ユニット合同で楽しんでいる。また、天候の良い日は、戸外で日光浴やお茶を楽しんでいる。法人主催の健康フェスタには、職員と一緒に外出し地域の方々と交流している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者やご家族の意向を確認し能力を考慮した上で検討し、日常的に利用者の意向に添えるよう現金の把握を行っている。また定期的にご家族の方からの確認も頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>御家族や知り合いから電話が来た際は、本人が直接会話を出来るよう支援している。本人からの意向に対しても同様に支援している。毎月、家族へは手紙と写真を同封し状況をお知らせしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングを常に明るい環境や雰囲気を提供出来るよう、花を置いたり季節に合わせた壁画を作成し掲示したりと、利用者が居心地良いと思っていただけるよう工夫をしている。また清掃を毎日行い衛生面へも配慮している。</p>	<p>共有スペースは、ユニットごとの雰囲気があり、採光もあって生花があったり、壁には干支を模した利用者の作品の掲示や季節を感じさせるレイアウトがしてある。2号館は、居室にテレビが備え付けになっており、ウッドデッキから庭に出て菜園を覗いたり洗濯物を干したりできるなど1号館とは居住環境が異なっている。長ソファーや畳スペースがあり、午睡や休憩などに活用されるなど、本人が思い思いに過ごせるよう工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>座席の配慮やソファを配置するなどし、自由に移動が出来るよう環境に配慮している。テレビ視聴を好まれる方への配慮も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人やご家族と話をし、使い慣れたものや好む物、寝具等を持ち参して頂き、居室が居心地良く過ごせるような工夫を行っている。</p>	<p>バラの花の好きな方は、家族が写真を壁いっぱい貼っては本人も部屋に居ながら花畑にいるような個性的な空間になっている。利用者は、使い慣れた物を持ち込み落ち着きのある居心地のよい居室になっている。また、居室は、掃除も行き届き清潔感がある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室前には本人が分かりやすいよう名前を表示し、また箆箭等の位置も個々で本人にとって使用しやすいように設置している。それ以外のトイレや風呂場でも入口に表示をし、何をする場であるか分かるようにしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない